

## 「通訳ガイドに役立つ 英語小噺と英語落語」

2025年1月29日、待ちに待った「通訳ガイドに役立つ 英語小噺と英語落語」の研修会。参加者47名（正会員40名、非会員5名、担当2名）場所はNHK「べらぼう」の大河ドラマ館が開催されている台東区民会館。



講師は（社）英語落語協会代表理事 鹿鳴家英楽（かなりや・えいらく）師匠。



担当の挨拶の後、いきなりウクレレ漫談でスタート。研修会場の雰囲気はわっとほぐれました。師匠のウクレレには牧伸二のサインがあり、“あ～あ、やんなっちゃた、”の曲はなんでもハワイアンだそう。“あ～あ驚いた”。



会場が和らいだところで、英楽師匠の講義が始まりました。落語のルーツは京都誓願寺の紫衣であった安楽庵策伝というお坊様。明治時代にオーストラリア生まれの英国人、快楽亭ブラックが外国人として初めての落語家になったそうで、2度目の“驚きました”。

驚き満載の講義の後には、おまちかねの英語小噺。会場の皆さんと英文スクリプトを復唱したりしてあっという間に中入り休憩。

後半は、明日のガイドに役立てようと、希望者が高座に上がり実演した英語小噺はみなさんたいへん上手。自作のジョークを披露された方もいるほど。

次に、英楽師匠が演じられた「寿限無」は海外で人気の定番。海外で演じると予期せぬ箇所でも大笑いとなるそうで、海外公演を数多くこなされている師匠も“あ～あ、驚いた”。「時そば」は全員で、そばをすすする所作を練習。蕎麦は1回で、うどんは3回ですするのだそうです。外国では蕎麦ではなく、ラーメンをすすっているものと間違えるらしい。蕎麦も、ところ変われば“品（支那）”に変わる。「お後がよろしいようで」、でした。



台東区が舞台の大河ドラマ「べらぼう」以上に盛り上がった「通訳ガイドに役立つ」研修会でした。追加の研修会を希望される方も。参加者は今回の研修で練習した小噺や、ヒントを得て各自が創作に励んだ自作の小噺、師匠の英語スクリプト集への挑戦（「修業」？）で、長いドライブも笑いに満ちたものにできるでしょう。英語落語の公演も頻繁に行われているそうです。